

全児童生徒：小学1年～中学3年、イベント 全校朝会、オンライン・ハイブリッド

ロシア・モスクワ日本人学校

1 前提

学校環境

対面授業を行うことができているが、全面休校を余儀なくされた場合のオンラインによる児童生徒への学習支援に備える必要があった。また、入国制限がある状況下、長期間（2～3か月）日本で待機を強いられている児童生徒がいた。さらに、コロナ感染が再び拡大すれば自宅待機を選択する保護者も少なからず出てくるのが予想されていた。そういった児童生徒に学びの空白による学力の格差を生まないう、学校と各家庭とのオンライン授業ができる基盤環境を整えることが必要となっていた。

課題と目標

本校では例年4階ホールで、全児童生徒（現在93名）が参加して全校朝会を行っていた。本校のホールは比較的狭いため、コロナ禍では全児童生徒がホールに参加するのではなく、3つのグループに分けて（30名程度）ローテーションでホールに参加する形式をとった。ホールに参加しない学年は、教室でオンライン参加した。また、受験などの理由で一時帰国した児童生徒や自宅待機している児童生徒もオンラインで参加した。本実践ではホール（オフライン）で参加する児童生徒とオンラインで参加する児童生徒双方が問題なく全校朝会に参加できるハイブリッドな環境・設計を整えることを目標とした。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

- » PC
- » タブレット
- » スピーカー
- » マイク
- » プロジェクター

具体的な活用方法

<全校朝会の流れ>

- ① 開会のことば
- ② 校長先生のお話
- ③ 生徒指導部長のお話（今月の生活目標・学習目標について）
- ④ その他（各種表彰など）
- ⑤ 閉会のことば



< ICT ツールの活用方法 >

» タブレット

オンラインで教室や自宅から視聴している児童生徒のため、複数のタブレットを使ってステージ上で話す人を映したり、ホール内で聞いている児童生徒を映したりするのに活用した。

» スピーカーとマイク

音が聞こえにくい課題に対応するために、集音能力の優れたマイクを購入し、タブレットに接続して活用することで、オンラインで視聴している児童生徒も音声が聞こえやすくなった。

» プロジェクターやスクリーン

資料や地図を拡大して投影。例えば、学校長が示した地図を拡大し、それをプロジェクターに投影させることで、ホール内の児童生徒だけではなく、オンライン参加の児童生徒も地図を確認し、地図の場所を理解することができた。



3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

- » これまでパソコンのみでのオンライン全校朝会では、画面が固定されている（画面が合わせづらい）、ホール参加している児童生徒の声が聞こえづらいなどの課題があった。タブレットを複数活用することで、学校長の話だけではなく、表彰の様子や会場の雰囲気など様々な視点で情報発信することができるようになった。
- » 全校朝会だけではなく、始業式や終業式、転入してくる児童生徒の歓迎会、転出する児童生徒のお別れ会なども同じようにタブレット等を活用して行っている。

児童生徒、教師、保護者の反応

<保護者を対象としたアンケートより>

- » <学校の教育体制>の「ICTを活用した教育が行われている」を見ると、「よくあてはまる」と回答する保護者の割合が72%と、前年度の43%から大きく向上した。これは、ICT教育の環境整備が一定の評価を受け、保護者の学校理解が進んだ結果であると受け止められる。